

【様式】

令和元年度 学校マネジメントシート

学校名（南伊勢高校 南勢校舎）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○自らの力で自分の将来を切り開き、地域社会に貢献するひとを育成する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○自立に向け、基本的な生活習慣と基礎学力を身につけた生徒 ○自分の夢を明確にし、希望する進路に向け、自ら努力し続ける生徒 ○自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒
	ありたい 教職員像	○共通認識のもと、生徒に寄り添い、生徒の個性を最大限伸ばさせる教職員 ○小規模校・校舎制の利点を活かす新しい発想を創造し実践する教職員 ○地域と共に歩み、地域から信頼される学校づくりを行う教職員 ○県立高等学校活性化計画（平成29年3月）をふまえ、活力ある教育活動を展開する教職員 ○総勤務時間削減を意識し、ワークライフバランスを大切にする教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<生徒・保護者> 基礎学力の定着。規律ある充実した学校生活。希望進路の実現。 <地域社会> 将来的に、地元地域で生活し、地域社会に貢献できる人材の育成。 <中学校> 学習面、生活面で中学校からの指導の継続。将来自立できるための力の育成。 取組内容の中学生及びその保護者への浸透。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待 <保護者> 学力向上。確かな進路保障。 学校との信頼関係。 <町・町教育委員会> 地元地域の活性化を担う人材育成。 生徒の進路保障。 <地元企業等> 将来的に、地元地域に勤め、地域社会を支えてくれる人材の育成。 <NPO等地域活動団体> S B Pを中心とした生徒による地域活性化への貢献。	連携する相手への要望・期待 <保護者> 学校と連携した家庭での生活指導・学習活動への協力。 <町・町教育委員会> 学校運営協議会等を円滑に進めるための協力。地元への就職支援。 <地元企業等> インターンシップ等教育活動への協力。 地元企業の採用増加。 <NPO等地域活動団体> S B Pを中心として、生徒が活躍できる多様な機会の提供。
(3) 前年度の学校運営協議会委員評価等		・生徒会を中心に挨拶運動や清掃活動を行っているが、学校全体で生徒の主体的な活動の推進が必要である。 ・小中学校に向けてさまざまな取組をPRしているが、これからも学校の魅力を発信し、小中学生が本校舎の高校生に憧れを抱くようなキャリアビジョンを示していくことが重要である。そのためには、短い時間の中でさまざまな方法を試してみるよりも、既にある魅力を全面に押し出していく方が効率的である。 ・度会校舎との一体感を高め、教育の質を担保するために、度会校舎とのICTを活用した授業の推進が必要である。	
(4) 現状と課題	教育活動	多様な生徒が在籍するなかで、基礎基本の定着を大切にした教育の実践と生徒一人ひとりへのきめ細かな指導により、地域から一定の評価を得ている。 また、地域からの支援を得て「地方創生アドバンスコース」の教育内容を充実させている。 今後、少人数教育を行う中で、生徒のより幅広い教科・科目の受講や学校の枠を越えた交流等、さまざまな教育機会の充実につながるよう、ICTを用いた遠隔授業の取組を進める必要がある。	

	学校 運営等	地域に密着した県立高校として、地域への貢献も視野に入れ、近隣の小中学校と連携した取組や、多様な年齢・立場の人々と係わる取組を行い、地域から一定の評価を得ている。 今後、学校の取組を地域の中学生やその保護者に浸透させ、入学者を確保していく必要がある。 また、度会校舎と共に一つの学校としての機能を強化していく必要がある。
--	-----------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動	・ 自他の命を尊重し、社会的自立に向けて基礎基本の学力と差別をなくす実践力を身につけさせるとともに、高い自己肯定感を持ち、自ら考え適切に行動できる生徒を育成する。 ・ 個々の能力・適性に応じて、自らの将来を主体的に考え、希望進路の実現に向けて積極的に取り組む生徒を育成する。 ・ 基本的な生活習慣や社会的規律・礼儀をしっかりと身につけ、心身ともに健康な生徒を育成する。 ・ 二校舎を取り巻く自然環境や文化を活かした教育活動を行うとともに、合同の部活動等を通じて生徒の交流を促進する。
学校運営等	・ 地域の多様な主体と協働し、地域からより信頼され、選ばれる学校づくりを推進する。 ・ 度会校舎と共に一つの学校としての機能を強化していく。 ・ 業務改善を積極的に行い、勤務時間の縮減に努めることにより、より質の高い教育を目指すとともに、ワークライフバランスに配慮しながら教員の一層の資質向上に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導等の充実	(1) 基礎学力の定着を図る。 【活動指標】基礎学力ウィークを年2回実施するとともに、基礎力診断テストを年3回(1・2年生)実施する。 【成果指標】基礎力診断テストの成績上昇者 50%以上 (2) 基本的な生活習慣や社会的規律の定着を図る。 【活動指標】遅刻、授業中退室の集計をもとに、教職員が協力して指導する。 【成果指標】遅刻、授業中退室の昨年度比 30%以上減少	(1) 基礎学力ウィーク2回、基礎力診断テスト3回、実施。 1年生5人中4人上昇 2年生は成果指標に至らなかった。 (2) 一部の生徒に遅刻・授業中退室を繰り返す状況が見られ、成果指標に至らなかった。	◎
遠隔授業の推進	(1) 度会校舎との間で多様な科目選択を可能にし、少人数の講座においても多様な意見や考えに触れたり、協働して学習したりすることを目指して、ICTを用いた遠隔授業に取り組む。 【活動指標】年5回程度	(1) 遠隔授業を4回実施。 【配信:度会、受信:南勢】 ・9月、1年保健体育 ・1月、1年数学 【配信:南勢、受信:度会】 ・10月、2年国語 ・11月、2年理科	
キャリア教育の充実	(1) 授業や学校行事を通じて地域との繋がりを推進し、地域の魅力を再発見するとともに、課題を見つけ、解決方法を模索し、地域に貢献できるリーダーの育成を目指す。 【活動指標】 ① 学校設定教科「地域創生」 ・ 学校設定科目「地域探求」及び「地域課題研究」 - 外部講師による講演またはフィールドワーク 年5回以上 ・ 学校設定科目「インターンシップ」就労体験 年15回以上 ② 防災教育 ・ 外部講師による講演またはフィールドワーク 年5回以上 ・ 東北等への被災地研修会への参加	(1) ① 外部講師による講演・フィールドワークを5回実施。 ・ 「地域探求」2回 ・ 「地域課題研究」3回 ※2年間の取組を南伊勢町長に報告。 ・ 「インターンシップ」14回 ※前期7回、後期7回 ② 講演・フィールドワークを4回(5時間)実施。 ・ 東北被災地研修 1年生(10/30～11/1)	※

	③ ボランティア活動 ・近隣の小・中学校と連携した合同清掃の実施 (2) 社会人として必要な態度・マナーを修得させ、将来にわたり社会への貢献を考えさせる。 【活動指標】進路ガイダンスや講演会 3回以上 【成果指標】就職内定、公務員試験合格、進学志望校合格 100%を目指す。 (3) 自らの適性を理解し、自己肯定感を持つとともに、生きることの尊さや生命のかけがえなさを理解し、自他の生命を尊重する姿勢を育てる。 【活動指標】人権LHRの開催、外部講師による講演会1回以上 【成果指標】アンケートをもとに、人権意識が向上したという生徒 80%以上	①②「地域探求」及び「インターンシップ」、「東北被災地研修」について、町民文化会館で発表。 (2/22) ③小中高合同清掃(6/4)、その他学校周辺の清掃活動を 2 回(5/23、8/28)実施。 (2) ・ガイダンスを 4 回実施。 (5/25、7/5、12/12、2/19) ・大学・企業へのバス見学を 1 回(2/13)実施。 ・進学・就職ともに 100%希望進路実現を達成。 ・昨年度に引き続き、マナー講習会を実施。(1/22) (3) ・外部講師による講演会を 2 回実施。(12/16、1/14) ・特別支援学校との交流を実施。(1/15)	
--	---	--	--

改善課題

- ・12月に基礎力診断テストに関する研修会を生徒・教員別に実施した。今後も継続していくが、生徒の取組状況に差があることから、テスト前の宿題冊子のコピー枚数が増えることなど課題もあることから、来年度は取り組み方を変更していきたい。
- ・引き続き教育の質の向上を目指し、度会校舎との遠隔授業の取組を推進する。
- ・生徒は落ち着いた状況で、謹慎指導やいじめ事案もない。引き続き家庭や教育相談との連携を密にし、挨拶・言葉遣い・身だしなみ等の基本的生活習慣の改善に取り組む。

(2) 学校運営等

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	(1) 教職員等を対象とした人権教育研修を行う。 【活動指標】人権講演会または研修会 年1回以上 (2) 特別支援教育についての研修会を実施し、生徒の実態に即した対応が出来るようにする。 【活動指標】特別支援教育研修会 年 1 回	(1) 南勢地区の小中学校と合同で人権教育研修会を実施。(1/22) (2) スクールカウンセラーをアドバイザーに招き、支援が必要な生徒についての教員研修会を実施。(7/8)	◎
情報提供による信頼の構築	(1) 学校の教育活動や生徒の取組等について、積極的に情報を発信する。 【活動指標】 ・中学校でのPTA総会や進路説明会等 - 本校舎の生徒や卒業生等の講話・発表 5回以上 ・Webページの更新 年 20 回以上 ・町の広報誌への掲載を毎月依頼 (2) 授業公開、学校見学会等を実施する。	(1) ・本校舎の生徒や卒業生による講話・学校紹介を 5 回実施。 ・Webページを年 20 回以上更新。 ・町の広報誌へ毎月掲載。	

	【活動指標】年2回 (3)コミュニティ通信を南伊勢町内すべての小・中学校の児童・生徒に配付するとともに、南伊勢町内 38 自治会に配付、回覧を依頼する。 【活動指標】年3回以上	(2)授業公開と学校見学会を合わせて2回実施。 (3)コミュニティ通信を3回発行。	
働きやすい職場環境づくり	(1)総勤務時間の縮減に努める。 【活動指標】 ・定時退校日を月1日及び定時退校強化月間を8月に実施 ・部活動休養日を週1日設定 ・放課後に開催され 60 分以内に終了する会議の割合を 90% 【成果指標】 ・月 80 時間を超える時間外労働者0人 ・月45時間を超える時間外労働者の年間の延べ人数を平成30年度比で1人削減(平成 30 年度実績4人) ・時間外労働を月 0.5 時間削減 (平成 30 年度実績 6.2 時間/月) ・休暇取得を年 0.5 日増加(平成 30 年度実績 28.0 日/年)	(1)定時退校日を毎月1日実施、8月は3日間実施。 ・すべての部活動において、部活動計画表を作成。週に1日以上休養日に取り組んだ。 ・月80時間を超えた時間外労働者 0 人 ・月45時間を超える時間外労働者の年間の延べ人数 6 人 (1 月末現在) ・時間外労働時間 8.2 時間/月(1 月末現在) ・休暇取得 21.3 日/年 (1 月末現在)	※
改善課題			
・授業公開や学校見学会などを充実させ、地域の方々への学校理解をさらに進める必要がある。 ・部活動の活性化にともない教員の時間外労働時間が増加している。今後、休暇取得や計画的な部活動指導の推進を図り、総勤務時間の縮減を図る必要がある。			

5 学校運営協議会委員評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○全教員で根気強く授業・生活態度等を指導し、授業規律の確立に努める必要がある。 ○来年度から午前の校時が度会校舎と同じ時間になり、遠隔授業を進めやすくなる。教員に新しい気づきを与え、教科指導力の向上につながる遠隔授業の更なる推進が必要である。 ○生徒の挨拶の声が小さい。挨拶の目的や価値等を理解させ、生徒・教職員が一体となった挨拶運動の推進が必要である。 ○本校舎の Web ページのアクセス数を増やすため、町や外部団体等の Web ページ上に本校舎のバナーの張り付けを依頼してはどうか。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	○各教科担任や生徒指導、教育相談、家庭等との連携を深め、生徒一人ひとりの学力の向上を図るとともに、授業規律の確保や社会的規律の定着の推進に努める。 ○度会校舎との遠隔授業を推進し、両校舎の授業力・教育効果の向上を図る。 ○学校設定教科「地域創生」の科目や総合的な探究の時間の授業内容の充実を努め、地域創生をテーマとした教育を推進し、地域に貢献する人材の育成に努める。
学校運営についての改善策	○学校の教育活動や生徒の取組等について、南伊勢町や関係機関等と連携を図り、本校舎の生徒・卒業生等の発表、町の広報誌やコミュニティの充実、Web ページの拡充等、積極的な情報の発信に努める。 ○計画的に勤務時間の割振り調整や休暇取得の推進を図り、総勤務時間の縮減に努める。